



主題名 家事は、女性の仕事？

教材名 どっちがやるの？

人権学習の視点 個別的な視点「女性の人権問題」



主題・教材について

女性差別をなくす第一歩として、「女は家庭・男は仕事」という性別に基づく役割分担意識を見直す必要が問われている。ここでは、日常的なできごとを通して、家事は女性がするものという偏見を見直し、皆が家族の一員として役割を担っていこうとする心情を養いたい。さらに、社会の仕事においても、男性・女性の特性を生かし、共に協力して社会生活を担っていこうとする心情も育てたい。

ねらい

「家事は女性がするもの」という偏見をなくし、自分にできる仕事、また、やりたい仕事を性差にとらわれず、進んでやっていこうとする心情を養う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○家庭の中で、自分が任されている仕事があるかを考えさせる。	一斉	○家庭の中で、任された仕事があるかどうかを考える。	○任された仕事がある場合は、どんな仕事なのかを発表させる。	
	どっちがやるのかな？				
展	○P.18を読んで、思ったことや感じたことを発表させる。	一斉	○P.18を読んで、思ったことや感じたことを発表する。	○京太と京子のやりとりから、二人の考えについて意見を出させるとともに、自分の家庭ではどうかについても考えさせる。	資料 「どっちがやるの？」 ワークシート 問1 グラフの拡大コピー
	○「家庭の仕事の分担状況」のグラフから、分かることとその理由について考えさせる。	個別	○グラフを見て、分かることとその理由についてワークシートに書き、発表する。	○女子の方が、家事の分担が多いことに気付かせる。 ○グラフの拡大コピーを用意し、女子のほう時間が長いことを視覚的に捉えさせてもよい。	
開	「女だから」「男だから」やりたい仕事につけないと言われたら？				
	○性差によって、やりたい仕事をあきらめなければならぬとしたらどう思うかを考えさせる。	個別	○男性・女性という理由だけで、自分のやりたい仕事ができなと言われたらどう思うか考え、ワークシートに書く。	○P.20～21の写真を手がかりに、自分のやってみようとした仕事とそれが性を理由に叶えられなかった時の気持ちを考えさせ、その理不尽さに気付かせる。	ワークシート 問2
まとめ	将来やりたい仕事は？				
	○自分のやりたい仕事を考えさせ、将来の職業に対する希望を持たせる。	個別 一斉	○将来、どんな仕事をしたいか考える中で、仕事に対する夢を持つ。	○性差にとらわれず、自分のやってみようとした仕事・自分の特性を生かした職業につくことの大切さに気付かせる。	

評価

「家事は女性がするもの」という偏見をなくし、自分にできる仕事、また、やりたい仕事を性差にとらわれず、進んでやっていこうとする心情を養うことができたか。